

「旅を終えて」

全てに、珍しい旅であった。

物見遊山の様で物見遊山でない

研修旅行の様で研修旅行でない

探訪旅行の様で探訪旅行でない

視察旅行の様で視察旅行でない

それは何かと訪ねたら“西遊記・山西記”

西遊記は三蔵法師がインドから教典を持ち帰った旅日記。

我が山西記は、山西省から石窟を始め、様々なモノを頭に入れ持ち帰った旅。

中国再認識の八日間であった。

かくまでも歴史的に密接に繋がっているのかと、改めて実感。

今争っている尖閣問題など、壮大な歴史を思えば、先人に恥ずかしき事象に思える。

文化と政治は違うと言うのでしょうか？

関山さんが、今回の旅行で「中国の光と陰を観た」と言っておられた。

まさに、同感でした。

広大な中国をまとめるには、合衆国制が良いのではと・・・。

いらぬお世話だとシナは言うかも知れない。

だが待てよ、この体たらくでは、その内、日本はその合衆国の一つに飲み込まれ兼ねないぞ！とも感じた。尖閣一つに右往左往する現実では。

大きな事を言って、“杞憂”だと愚妻に笑われた。

出発前に、トイレ杞憂症候群だった愚妻は、全快したようだ。

歴史的には、中国に全て負けたが、トイレでは日本が勝った。

中国にはウォシュレットがない！今回、ホテルは全て四つ星だったが、なかった。

日本人のお尻は、世界一きれいだ！

もう一つ、私的なおまけの目的、異国からNet発信が出来た事。

携帯電話も、日本と自由に話せたし、ITの凄さを、実感できた旅でもあった。

壮大な歴史文化、仏教文化に触れ、気宇壮大な気持ちになれたのに、少し時間が経つと、チマチマした現実に戻らざるを得なくなるのが悲しい。

でも今回、観たこと、聞いたこと、知ったことで、今までとは多少なりとも違った発想、行動が出てくるのではないかと、古希過ぎの身に、かすかな期待。

今回の旅をご一緒させていただき本当に有り難うございました。

種々ご迷惑をおかけしたと思いますが、不粹者に免じ、お許しを頂きたいと思います。

思いつくまま、勝手気ままに、この八日間を綴ってみました。

薄れ行く記憶をとどめ置くつもりで。

平成24年・雨の七夕

土建屋 寅次郎